

# 未来の学校づくりを 考えるプロジェクトだより

第 3 号

令和 3 年 1 2 月 2 日 発行  
納 所 小 学 校 P T A  
未来の学校づくりを考えるプロジェクト

あでやかな錦秋の時期も過ぎ、いよいよ冬の到来も身近に感じる頃となりました。P T A 会員の皆様には、日頃より P T A 活動にご理解とご協力頂きありがとうございます。

これまで、当プロジェクトは委員長をはじめ 1 2 名のメンバーで検討を進めてきましたが、「未来の学校」話にできるだけ多くの保護者の皆様に参加できるように、リモート開催を試みました。いかがでしたでしょうか？今後も保護者が一体となって考えられるように工夫をしております。

メリット、デメリットにテーマを絞った第 3・4 回プロジェクトの様子について、ご報告いたします。

## 本当の課題は現場にある！

### 第 3 回 未来の学校づくりを考えるプロジェクト

- 日 時 令和 3 年 1 1 月 1 1 日 (木) 1 9 時 0 0 分～ 2 0 時 2 0 分
- 場 所 納所小学校 会議室



これまでの会議でも話題の中心となっていた通学の課題 (ルート、時間、方法等) を検証するため、3 つのルートに分かれて歩き、見つかった課題を共有し改善方法等を検討いたしました。また、「通学方法の基本的な考え方」について説明があり、それに対して議論し共通認識を深めました。



### 通学調査(結果・協議・検討)

小中一貫教育校が創設された場合の新校予定地の洛水中学校まで、児童目線で歩いてみました。

ルート 1 (パールイツ～旧千本～中学校)、ルート 2 (ディオ・フェルティ淀桂川～京都守口線～中学校)、

ルート 3 (横大路松林地区～京都守口線～中学校)

#### 【主な検証結果】

- 旧千本は抜け道になっており、道は狭いが高速で走る車が多い。
- 納所大野付近の道が狭小なうえ、歩行者横をバイクがすり抜けることも。
- 京都守口線は会社が多く、人通りが少ない。急なトラブルの際、助けが得にくい。歩道を走行する自転車にも注意が必要。低学年が重い荷物を背負って日影のない一本道をひたすら歩くのは厳しい。
- ガードレールが無い歩道や柵のない側溝があり危険。
- 横大路松林地区は京都守口線に出るにも距離がある。横大路運動公園を横切り京都守口線に通じる道路ができれば解消されるのだが。



### 統合に伴う通学方法等について

教育委員会学校統合推進室 塚原課長様より説明

- ・学校の設置について通学距離は「おおむね小学校 4 km、中学校 6 km 以内」、通学時間は「小中ともにおおむね 1 時間以内」と文部科学省が定めている。
- ・これまでの京都市の学校統合の取扱いでは「**校区が広がる**に伴う**徒歩通学**は、子どもたちの**安全確保や負担軽減等**を考慮し、『**1.5 km 程度**』としてきた。
- ・今後、地域の道路事情なども踏まえ、京都市と地域・保護者で協議を進める。  
(例) 公共交通機関がある⇒公共交通機関による通学 公共交通機関がない⇒スクールバスによる通学
- ・この地域の市バスは 1 時間に 1 本程度であり、増便などについて、今後関係機関を含めた検討が必要。



皆さん、気軽に参加できますよ！

#### 第4回 未来の学校づくりを考えるプロジェクト

- 日 時 令和3年11月25日（木） 19時00分～20時00分
- 場 所 納所小学校 会議室（一部オンラインによるデュアル開催）



前半は小中一貫教育校に関する説明が行われ、後半は小中一貫教育の実態をよく知るために、小中一貫教育校の見学会に向けた話し合いを行いました。今回初めての取組としてプロジェクトのオンライン配信を実施、5名の保護者の方々に参加いただきました。当日は視聴のみでしたが、小中一貫教育校の説明に対してのご意見やご質問、施設見学時に聞いてきてほしいことがあれば、近くの委員もしくは学校までご報告ください。

#### 小中一貫教育校について

学校統合推進室 塚原課長様より説明（オンライン配信）

- ・小中一貫教育及び小中一貫教育校の概要説明
- ・近隣の向島秀蓮小中学校を例に「現状から変化する事柄」を中心に一貫校の特徴的な取組みの説明
  - ①小中9年間で3つのステージ（4・3・2制）に分け、定期考査・一部教科担任制・部活動等、より効果的に導入。
  - ②入学式は1年時、卒業式は9年時のみ、各ステージ修了時のセレモニーは実施。
  - ③標準服（制服）の着用や給食の方式については、地元・保護者の方々に検討いただき決定。（向島秀蓮は制服を1年生から着用、給食は9年間自校調理方式を採用）
  - ④施設は特徴的な教育活動に対応するとともに、災害やバリアフリーを考慮した構造に。
- ・施設一体型小中一貫校になると、洛水中学校敷地で約670名（1～6年で約450名、学年2～3クラス）と学年の友達の数が増える。
- ・小中一貫教育校創設には、PTA・地元の合意が前提。子どものこと、ひいては地域の将来のことを念頭に検討することが必要。



#### <委員からの質問>

- ・小中一貫教育校になれば、中1ギャップや人間関係のトラブルは減少する？
- ・学習面の進度は、一貫校になることで変わる？
- ・中学校の教員が小学生を教えることでの効果は？
- ・学力面の向上は見込める？ 等

#### 小中一貫教育校の見学について

市内中心部で一番新しい一貫校の「向島秀蓮小中学校」と、市内中心部で初めての一貫校の「開晴小中学校」の見学会を1月に予定しています。洛水中学校区3校のPTA代表者で見学に行きます。

当日は各校の校長先生からお話を伺い、授業・休み時間の子ども様子や施設を見させていただく予定です。見学の様子は後日、皆様へご報告いたします。



向島秀蓮小中学校



開晴小中学校